

令和元年度第1回仙北市総合政策審議会 議事要旨

- 日 時 令和2年2月17日(月) 13時30分～15時40分
- 会 場 仙北市役所田沢湖庁舎3階 第1会議室
- 出席委員 中村正孝会長、能美忠堯副会長、佐藤和志委員、池本敦委員、新山睦子委員、赤上マツ委員、草薨隆委員
- 欠席委員 橋本護委員、田口知明委員
- 市 門脇光浩市長、小田野直光地方創生・総合戦略室統括監、藤村幸子地方創生・総合戦略室長、明平英晃地方創生・総合戦略室主査、
- 事務局 大山肇浩総務部次長兼企画政策課長、畠山徹企画政策課長補佐、豊島孝樹企画政策課主事

1. 開会

○大山次長

皆さまお疲れ様でございます。定刻になりましたので、これより第1回総合政策審議会を開催いたします。始めに市長の門脇がご挨拶を申し上げます。

2. 市長挨拶

○門脇市長

改めまして、お忙しいところ皆さまに足を運んでいただきました。心より感謝申し上げます。審議に入る前に、仙北市の現状について幾つかお話ししたいと思います。まず、皆さまが実感していますとおり降雪量が例年より非常に少なく、良いことと悪いことが幾つも起こっている状況にあります。雪は地域にとっては資源であったと改めて感じる年であったと思います。また、雪が伝統文化とも密接に関連しているということもよく理解できた年です。一部の事業はこの雪不足を受けて、来年のあり方を考えなければならないというお話し出ております。それは規模の縮小など様々なお話しである一方で、重要な雪の資源を地域にとってかけがえのない財産として活用する手法を考えるという前向きな意見もいただきました。

また、連日テレビを賑わせている新型コロナウイルスではありますが、もちろん秋田県では未だに発生事例が無いわけですが、仙北市としては秋田県で最も観光客をいただく町として、既に対策を始めている状況にあります。皆さまご承知のとおり既に風評の被害も全国で出ているところですが、私たち行政としてはしっかりと対策を行っている、という状況にあります。これについてはどうかご安心いただきたいと思います。

今回、皆さまのご意見を賜ることになりますが、4年目の総合計画の検証では、全ての評価対象事業を合わせると102事業あります。その中で、最終年度のKPIに対する達成率

が20%以上、これをA評価としていますが、これは例年より5事業増えて65事業となっております。また、達成率10%以上のB評価が2事業減り1事業となっております。達成率10%未満のC評価は4事業減り36事業となっておりますが、このC評価事業につきまして皆さまから忌憚の無いご意見をいただきたいと思いますと考えております。

また、今年はふるさと納税において全国の皆さまに大変ご支持をいただきました。目下、県内1位の7億5千万円以上の寄付額となっておりますけれども、この使い方についても皆さまから様々なご意見を頂戴したいという思いもあります。現状として、このふるさと納税がこのように推移していないと来年度の予算編成は非常に厳しかったというのが、正直なところであります。来年度の当初予算はおよそ214億円。今年度の予算枠はおよそ211億円からスタートしているわけですので、3億円程度上積みとなっているわけですが、これには様々な事情がございまして、まず12月に完成を見込んでいる角館庁舎。また3月に完成を見込んでいる給食センターと、幾つもの大きな事業がありまして予算額が膨らんでいます。更に、懸案となっていた田沢湖黒沢工業団地への企業誘致に目処が立ったことで、それに対する国や県の補助事業であったり、市からの支援であったりと幾重にも新たな取組みが押さえております。これは生産年齢人口の減少、少子高齢社会に立ち向かっていくための将来への投資であります。最先端技術を活用しながら地域の皆さまが住み続けることができる町を目指しております。

そういう意味で皆さまには総合政策の審議会として、この後も持続可能な自治体であり続けるため、取捨選択の非常に難しい分析があつてご発言があると思いますけれども、忌憚のないご意見を是非私たちにお伝えいただきたいと思っております。元より市民の皆さまの代表でありますので、どうかご協力方よろしくお願ひしたいと思っております。

3. 審議案件等

以降は中村会長が会議を進行。

(1) 平成30年度仙北市総合計画実績について

(2) 平成30年度仙北市総合戦略評価・検証について

畠山課長補佐が資料を元に報告。

○佐藤委員

湖畔の街灯について、湖心亭からレストハウスまで遊歩道の湖畔側についてはある程度街灯があるようですが、車道側には街灯が無いようですね。ですから湖畔のホテルに泊まって夜の散歩に出かける、といったときに、観光地としての湖畔のあり方を考えると、もうちょっと街灯の明かりがあつてもよいのではないかな、と思っております。総合計画の中には景観づくりに関する事業もありますが、宿泊施設の周辺くらいは夜に歩いても問題無いような空間づくりをしないとまずいという思いもしております。

○中村会長

街灯について意見が挙がりましたが、景観形成推進事業や街頭防犯新設団体補助事業に該当するのでしょうか。事務局としてはどうでしょうか。

○大山次長

今年の田沢湖龍神まつりの際にも街灯が切れているということで、何とかならないかという相談は伺っております。ただ期間が無かったことから対応しきれなかったところもございました。夜の湖畔が暗いとあまり観光地らしさがありませんし、できれば街灯を設置したいところではございます。

○佐藤委員

一昨年、龍神まつりでは、打上げ花火を湖の遊覧船から見てはどうかということで、羽後交通さんにも協力していただき船を出したのですが、今のイベント広場から船に行くときにレストハウスまでの道路沿いに街灯が無いんですね。湖畔の遊歩道には街灯があるようですが、肝心の幹線道路に街灯が無くて暗いというのは少し心配だなと思いました。

○門脇市長

街灯の設置には幾つかのパターンがあるかと思いますが、例えば集落や町内であれば町内の方々が電気料を支払うということで協議されていたところは街灯を設置しやすいということもあったようです。今のお話にあった県道の部分については交通安全施設ということになるようですが、私も一昨年その会場に行った際には暗いなと思った記憶がございます。県の交通安全施設という考えでよいのか、それとも県の網掛けされている公園内での何かしらの取決めがあるのか、いずれにせよ県にお話を聞かなければならないと思います。県の地域振興局では最近、田沢湖に力をいれてくださっているのでも次の機会にお話ししたいと思います。いずれにせよ少しお時間をいただくことになり、すぐには結論が出ないと思います。

○佐藤委員

是非、お願いします。

○中村会長

他に意見や質問はありませんか。今回は大変ボリュームがありますので、色々な箇所で意見や質問がありそうな感じがしました。遠慮せずをお願いいたします。

C評価の分析・評価に書いてある文面ですが、これは令和元年までの実績を集約した形でまとめたものなののでしょうか。それとも30年度のみの実績についてのものなののでしょうか。私は過去の資料も保管しているので一つずつ見比べてみたのですが、内容がそのままのものもあれば新規のものもあり、削られたものもあります。そのところを教えていただきたい。

○畠山課長補佐

こちらの資料は平成30年度実績の時点で指標や達成度が低いものを挙げております。過去の資料から無くなったものは達成に向かったということです。分析・効果の文面は取り組まれた各担当課から自己分析という形で記入していただいた内容となっております。29年度と30年度の事業内容がほぼ変わらず継続しているような事業は同じような分析になっているものもあります。

○大山次長

全体の動向としては、まず評価対象数の変動ですが、事業廃止などで2件減少しており、評価再開ということで1件増加しております。合計で1件の減ということになります。評価の変化につきましては、C評価からA評価が8事業、A評価からC評価が5事業、B評価からA評価が2事業ということで、A評価が5事業増で65事業、B評価が2事業減で1事業、C評価が4事業減で36事業という内訳になっています。

○中村会長

ありがとうございます。アスリートの合宿誘致事業がありますが、私は以前バレーボールをやっておりましたので、その関係から申し上げますと、市内にはナショナルチームを呼べるような施設が無い。それぞれの競技には競技規則がありますので、その条件を満たす施設でなければ仙北市に来ては無意味だということです。天井の高さにも規定がありますので、それより低ければ話にならないということもあります。ですから、そういう面での施設が足りないのではないのかなと思います。新しい体育館を造るという話もありますけれども、どういう競技をその中でやるのかといったことを含めながら検討していかなければ、ただ施設を造っても誰も来ないであろうと思います。そのことについて、事務局に質問したいと思います。

○門脇市長

全くそのとおりでして、ソフト事業はともかくとして、その前提となる話がもう少し形が見えないとなかなか難しい。例えば会長がお話になった総合体育館については数社のゼネコンの方々からPFI方式で提案していただいている最中です。その背景となっているのは市が建築費を負担しなくてよいという考えです。仙北市は交通環境や温泉などの周辺環境が優れているので、民間企業の方々であっても体育館を建設した後の有益性が見込まれるのではないかという考え方があるようです。ただ、現実的にどこまで進めるかというのは我々が先導できる状況ではないので、何とも言い難いところではあります。

○中村会長

仮に体育館を建設するとなれば、体育館だけではなく付随施設として合宿できるような宿泊施設などもあれば誘致に有利でしょうし、或いは研修用の施設を用意するなど、色々なことが出

てくると思います。ただ宿泊するだけなら高原へ連れて行けばいいわけですが、宿泊先からできるだけすぐ練習するとなればまた違うと思います。いずれトップクラスの選手を呼ぶとすればそれに見合った施設が必要になってくるのではないかなと思います。

○門脇市長

現在、スポーツセンターは県の機関で、グラウンドの改修等を行っていただきたいということでお願いをしておりますが、金額的に県の財政では厳しい状況ということで、それを圧縮する作業をしております。県の上層部からはかなり期待できるところまで行ったと聞いております。

○草薨委員

市長がいらっしゃる良い機会なので伺いたいと思いますが、安心して暮らせる町づくりの観点からライフラインの関係ですが、水道、電気、医療、福祉と様々あるわけですが、それらを含めたライフラインの事業に C 評価があるというのがどうにも引っかかります。計画的に事業を進めていると思いますが、その辺りの考え方について伺いたいと想います。例えば水道関係や防犯関係、医療体制など、これらについて今後どのように考えているのかを可能であればお聞かせ願いたい。

○門脇市長

まず、水道事業は現在公営企業法適用の事業会計を行っていることもあり、原則使用料でその事業を賄いましょうということになります。ですが実態としてはそれがかなわずに一般会計から年間数億円を拠出しているという現状です。この間やっとな仙北市内の水道料金が統一された状況ですが、下水道料金も含めて見直しをしなければ会計を維持するのが困難だというのが既に想定できております。しかし一方で水道の未普及地域がまだあり、未普及地域からのとても強い要請・要望があります。飲み水にも困るという現状が散見されており、自治体としては何とかそういった点を改善していきたいというところが本分であります。

現在、卒田地区と黒沢地区で水道事業が来年度から本格化しますが、事前アンケート等で水道管を通したら活用していただくと確認できた管の設計を行っております。例えば卒田地区の整備は19億円ほど要するかと思われていた全体事業でも、10億円を切るところまで事業をスタートすることができる、というところまで精査が進んでおります。それが良いことかどうかは別にしても、経営の安定化を図るためには必要なことであるというシビアな見方をさせていただいております。公共事業だから赤字を垂れ流してもよいというわけでは全くないわけでその観点でここ2年ほど前からかなり重点的に見ている状況です。ですので、漠とした管路設計はやめております。これはまた一つの課題としてお話しいただいた病院事業も同じで、そもそも自治体で抱えている病院施設というものは民間の医療機関では採算がとれない部分を多く抱えています。そういった状況の中であっても安定経営を行っていかなければならない、と責任が異なるわけです。今年度は今ある角館病院、田沢湖病院、五つの診療所の体制の見直しを進めており

まして、来年度からは、例えば診療所と言えば田沢診療所は閉鎖させていただく。桧木内診療所にあたっては週1日診療とさせていただく。神代診療所にあっても、先生方の交代をうまく進めて、例えば秋田大学からお越しいただくような出張医師を抑えていただく、というようなことをして効率化を図らせていただきます。

今、3月の議会で一番問題になると思われるのは、昨年度の角館病院及び田沢湖病院の病院事業の赤字補填をするかしないかという判断です。私たちは既に補正予算を計画として組んでおりますので、およそ3億円を一般会計から病院事業会計へ拠出させてほしい、それを何とかお許しいただきたい、という議案で議会に臨むことを決定しております。そこで議員の皆さまからは、一般会計の3億円を病院事業にかけてよいのかという議論が当然あるかと思います。しかし、先ほどの水道事業と同じ考え方で恐縮ですが、自治体がやらなければならない事業の一つである病院事業、仙北市の場合は大曲厚生医療センターとの連携が大変重要であります。ここだけの話しですが、現在、大曲厚生医療センターと仙北市の協定の締結について話を進めております。角館病院や田沢湖病院の診療科目の不足を厚生医療センターの応援で賄うという新体制がまもなくスタートできるかと思えます。そうしてでも何とか地元で自治体病院を残したい。これが仮に残らないとすると、大曲厚生医療センターがパンクしてしまいます。ですので、厚生医療センターも他人事ではないという話をさせていただいております。こうした助け合いが更に深くなっていかなければ自治体病院は守れない、という段階まで来ているというのが実態です。

○草薨委員

先ほどの水道事業の話ですが、老朽化した水道管が来ているがどこを通っているのかわからず、地面を掘ってみなければわからないといった状況のようです。そのため水を買ってきて生活している人もいます。そういった意味ではライフライン事業の一つとして市民のために必要ではないのかなと思います。また、救急医療を含めて医療体勢もしっかりしてもらいたいなと思うところです。

○門脇市長

お恥ずかしい話ではありますが、水道管の位置が過去に設計された図面どおりではないという事案が多々あり、水道管が通っていたはずが見当たらないという話も伺っています。誠に申し訳ない状況です。

○赤上委員

どの項目に当てはまるかわかりませんが、地域に暮らす住民として意見したいと思えます。上桧木内地区では高齢化が非常に進んでおります。高齢者一人の世帯や老夫婦二人のみの世帯が多く、非常に過疎化が進んでおります。施設に入った方は別として、施設に入るまでもないという高齢者の方々の心の拠り所が無いことが懸念されます。そこで、自分たちで何とかできることは無いかと、認知症やその家族を支える会というものを立ち上げました。活動は桧木内地区に

も広がり今年度は100人以上が参加してくださっております。活動は包括支援センターや社会福祉協議会と連携して行っており、今年でようやく4年目に入ったところです。

また、買い物が大変だという声をよく耳にしています。そこで業者と相談して、食品や衣類の他、季節ものの商品も売ってもらうイベントを開催していただいております。こういった活動を通して、歳を取っても元気なうちは元気の無い人を助けなければならない、まして過疎地ですので、あまり行政を責めてもどうにもならないところもあるということを参加者が意識し始めたようです。しかしその方々も歳を取っていくので、いつまでもつか先が見えず、アクションを起こした者としては非常に心許ない。後を継ぐ人がいないというのが問題になっています。

それから、降雪量の悪い点がこの間の紙風船上げに出てきました。私は婦人部の料理の献立を立てる役でしたが、事前に台湾をはじめとした海外からの観光バスが減少しているという情報を得て、用意する量を減らしました。そのおかげで今回の収入は例年の半減以下でした。そういった行事に従事する人たちの意気込みはまだあっても参加できる核が無くなってきている。だからみんなで応援しなければならないでしょう。たった一晩でも内陸線の駅に行列ができる、打上げ花火を見つつ酒を飲みながら多くの方々が楽しむ、そういった瞬間がそこに生きる者の喜びですからね。そういったことをいつまで続けられるのかという危機感は抱いております。しかしあまり行政を責めてもいけない、そういった意識も地元のお母さんたちにはあるようです。

それともう一つ、どこの施設にも入ることができない人たちがいますね。そういった人たちが枠組みを外して多世代交流の施設なんか使えないだろうと言うのです。以前、イベント販売用の山菜のバック詰めが山鳩館で行われ私も参加したのですが、施設から悪臭がするのです。あの施設は長寿支援課の管轄でしたか。しかしバック詰めの管轄は別の部署、と縦割りで区切られているわけですよ。だから管理が行き届いていない。特にトイレが汚いですね。それにものがどんどん無くなる。椅子は無くなるテーブルは無くなる、無くなるんですよ。だからあそこがどこの管轄かなどという話ではなく皆さんに管理してもらいたい。紙風船上げのときに宿泊できる場所を作って一儲けしたり、あるいは地元の人が集まって料理や勉強をしたり編み物をしたり、あるいは子育て中のお母さんたちが悩みを相談する交流の場として。多世代というか多機能的に使える施設に早急にしてもらいたいと皆さん希望を出しています。

○中村会長

色々あると思いますけれども、今は総合戦略の評価を行っておりますので。それを土台にしていただきながらお話ししていただきたいと思います。他にございませんでしょうか。

○池本委員

全体を通しての意見ですが、C評価の事業がまとめられていますのでC評価の事業数が日につきますけれども、全ての事業がA評価とB評価だと目標の設定が甘かったのではないかという話になります。ある程度C評価の事業がある方が健全ですので、これはこれで妥当なのかなと思いました。

あと、仙北市外部からの意見として申しますと、仙北市内で関係する事業もあれば他の地域と競争になっている事業もあります。例えば耕作放棄地であれば仙北市だけでは解決できないかもしれないし、地方創生特区推進事業も KPI に企業移転数があると企業誘致となります。宿泊者数についてもそうですよね。そういったところは他の地域も誘致を頑張っていると思いますので、より工夫が必要なのかなと思います。今後どうするのかな、と。本文に書かれている改善策だけでは見えてこないですね。そこは私も答えがわかりませんが、更に努力が必要かなと思います。

一方で、少子化対策として若者や子供への対策が必要だと思いますが、そういう面では青少年国際交流事業による角館高校の台湾との交流支援は非常に素晴らしいなと思います。あとは就職の面接講座など色々なさっていますね。県立高校で会っても地元の市町村が予算措置を改善、改革をしている高校って全国にたくさんあります。有名のところと言えば島根県の隠岐の島の県立高校は県の予算を出さずに地元の町が予算措置を行い、県外の生徒を集めているという事例もあります。そういった高校と比べると、角館高校はまだ恵まれていると言えるでしょう。より恵まれない地域でも頑張っている高校があって、県立高校であっても地元の予算措置で頑張っているところもあるので、そこは県と市の垣根を越えて、高校生のためにもより一層投資していただきたいと思います。

○小田野統括監

特区等の関係で他の地域との競合、KPI についてご質問がございましたが、企業誘致等では仙北市にお越しいただくという形を創っていかなければならないので、仙北市の優位性や魅力といった特徴を広く PR していくことが必要かなと思っております。例えば、これはまだ令和元年度の事業に反映されていませんが、先日、現在特区に選ばれている自治体同士で情報交換を行う機会がありましたが、誘致する活動について他の自治体でしっかりやっている部分もありましたので、仙北市に来ていただくための仕掛けをもう少ししっかりやっていかなければならないと思います。

あとは私の担当外ですが、例えば観光の分野でも観光協会が DMO を立ち上げており、他の色々自治体もやっている中で観光に注力するという点では秋田県の中でも特に力が入っています。そういったところで仙北市の様々な魅力を発信していく、仙北市に来ていただく、という戦略を創っていくことが必要だなと感じています。

○門脇市長

県立高校への支援について、当市の財政課を含めた財政規律上のお話をいたしますと、市町村予算を県予算と交錯させることはあまりよろしくない、という規律上の考えがあります。県の教育委員会からは大館市の高校の皆さまへ補助が入っているようで、私学の関係だと思いましたがノースアジア大学にも補助が入っているということがあり、けれども角館高校は地元が支援を行っているからいいだろうという解釈がどうにもあるようです。そこを毎回均一化して欲しい

という話を毎回しているところです。

また、先ほどの赤上委員のお話にありました山鳩館をどのような形で地域の拠点センターとするかという議論が始まっていて、一度総務部長を中心に地域の方々とお話しする機会を設けました。私たちの考えとしては是非地元の皆さまに管理していただきたい、もちろん管理費は行政側で負担しますが、運営やプロデュースに対して現状のような市のセクト化した考え方ではなく地域で活用できるセンターとして運営していく、という指定管理の考え方で進めることができないかという方向になると思います。是非地域の方に参加していただいて、自分たちの使い勝手の良い施設にして管理していただければ行政としてはありがたいところでありたい。

同じ考え方がクリオンと体育館と保健センターの関係にもありまして、施設への補助金に関係している各省庁との関係をまだ意識する職員がいるようで、その関係は既に10年以上前に撤廃されているわけですが、そうは言っても何かあった場合という話になってしまいます。むしろ職員の意識改革が無いと地域の建物の有効活用は困難だという事例もあるわけです。そういったソフト事業の中での新しい見方もこれから意識しなくてはならないと思います。

○中村会長

そろそろ時間も押していますので、次の議題に入ってもよろしいでしょうか。(異議無し)

それでは案件の総合計画の実績と総合戦略の評価・検証についてはこれで締めまして、次の地方創生推進交付金事業と地域再生計画の項目に入っていきたいと思えます。事務局の方からまたご説明をお願いいたします。

(3) 平成30年度地方創生推進交付金事業評価・検証について

(4) 平成29年度地域再生計画評価・検証について

藤村室長が資料を元に報告。

○中村会長

今、藤村室長から資料を元にご説明がありました。これらについてご意見やご質問があればお願いいたします。

○門脇市長

私の方から本筋に関係の無い話で恐縮ですが、桜について文化財市議会とお話をお伺いすると角館に旧来から植生の無かった桜を植えることに対する抵抗感のようなものがあると感じていて、例えば桜の開花シーズンをできるだけ長くしてお客様の滞留を可能な限り広げたいところではあります。現在、皆さまに普段見ていただいている品種以外の桜を植生するというような動きになっておりますけれども、それに対して皆さまにはどのような思いがあるのかなと思っております。

○中村会長

私たちは花見というと、高校時代は武家屋敷ではなく昔のトンネルの所、今の駐車場になっている所や昔の角館小学校のグラウンド等が座敷を敷いて花見を行う場所でした。今は武家屋敷の方になっていますけれども。土手の桜も大分歳を取っていて、寿命も近いようですね。あの種はどこも寿命を迎えてきているようです。弘前では桜を管理する課があって桜の剪定なども行われているようですが、昔の面影が無くなってきているように感じます。

○門脇市長

同じ品種から萌芽させて世代交代を促してはいますが、いずれにしても品種が同じなので咲くときには咲くというもののようです。今年のように蓄積気温が高いと4月になって早く咲いてしまうのではないかという話もあります。桜の開花を遅らせるためにはクールショックが必要という話もあるようですが、どうもクールショックは南の地方の桜に関わる話で、北の桜にはクールショックは要らない、という学者さんのお話もあるようです。恐らく蓄積している気温によって咲くものと思われそうですが、恐らく連休までには間に合わないでしょう。地方創生推進交付金事業の話をしているときに申し訳ありませんが、全体に関わる話、重要な課題なのであえて桜の品種について皆さまにどのような思いがあるのかお伺いします。

○新山委員

エリアを分ければ別に品種には拘らなくてよいと思います。

○門脇市長

では、例えば現在古城山で角館地域運営体や NPO の方々が桜の植栽をする話があるのですが、それについてはいかがでしょうか。

○新山委員

古城山の場合は一番上に姥桜の木があり、その木自体が大変になってきているので、あの周りを保全していくにはかなり難しいものがあるかと思います。桜まつりの時期は、古城山に登って花見をするという観光客が最近はすごく増えてきています。古城山の道はここ一年でかなり整備されていて、それに関しては良いと思います。

あと、プロモーションの事業で仙北市の紹介を SNS に掲載しているようですが、ハッシュタグの使い方がちょっと良くないのではないかな、もう少し改善すればもっと閲覧数が増えるだろうなと思います。

○佐藤委員

角館の桜を長持ちさせれば観光客の入れ込みも増えるというのもわかりますが、やはり市長のお話のとおり桜の咲く時期というものは品種によるもので、武家屋敷の桜を新しい品種と取

替えるといったことも今後やるものかと思いますが、あのエリアに下手に変なものはいれない方がよいと思います。それよりは古城山とか、できれば観光バスが角館、抱返り、田沢湖という30分間の距離を移動する中で、角館の桜が終わっても田沢湖の下高野の桜が満開だといった話を並行して売り出していくべきではないかと思います。角館の桜の見頃が終わったら下高野といった位置づけを確立していけば町の人もそれを認知しますし、市内の各地域に行ったときに地域の人が市内の桜の開花情報を観光客に教えてくれるかどうかということは観光地としての質が問われる部分だと思います。

私としては以前下高野の植樹会に参加した後、全国から集まった方々から高原まで桜を植えれば素晴らしい観光地になるという話をいただき、全国各地からいただいた様々な桜を植えたもので、そのことを以前から教育委員会にお話ししてきたつもりなのですが、能書きが誰にも無いようなのですね。全国から貰った桜という看板があれば観光客も感心を持つのではないかなと思います。

○門脇市長

今まで、桜の手入れは文化財課による文化財保護法に基づく対応が主でした。今年度からは桜まちづくりという事業がスタートしていて、文化財保護法によらない市内の桜の名所づくりが始まっていて、彼らには木の選定や何が必要なのかといったことについて、今年一年間で随分頑張ってもらいました。事業として目に見えてくるのは来年度以降だと思いますが、今おっしゃった下高野も大きなポイントになっています。

○中村会長

下高野からスポーツセンターの下の辺りまでは今後も植樹ができそうですね。

○門脇市長

角館は武家屋敷の黒塀としだれ桜のコントラストが欧米の方々は好きなようです。その話をしていたら、下高野と秋田駒ヶ岳という大きなスケールでのコントラストが魅力的だという話もしていただきました。そこに接続していくような風景を創りたいと思います。

○佐藤委員

また、せっかく角館に堤の桜並木や武家屋敷の桜があるのに、桜並木駐車場から武家屋敷に入ってしだれ桜を見た後折り返してすぐに帰ってしまうというパターンを崩さないと。やはり桜まつりのシーズンに角館の町中にどれだけ滞在する時間があるかで経済効果が出てくると思います。

話は飛びますが、駅前にアパートか何かの建設工事が進んでいますが、やはり駅前に駐車場が無いというのは全国のどこの駅でも問題になっていますので、せっかく角館の駅前にあれたけの土地があるので、お金の問題になりますけれども、やはり市で買っておくべきだと思います。

角館駅前に車を置いて歩いて、角館の町を通して武家屋敷までを往復するとなると経済効果もすごく大きくなると思います。大型バスも駅前で人を降ろすか、角館の旧庁舎の跡地が駐車場になるとすれば、そこでバスから観光客を降ろして、武家屋敷の角に駐車場があれば観光客も迷わないでしょうし、案内する方も楽だと思います。今は桜並木駐車場を中心に全て組まれているのもったいないなと思いますね。ですからやはり、市内に滞在してもらうことを考えるのであれば駅前の駐車場は市で持っている方が将来的にはプラスになるのではないかなという気がします。

○門脇市長

私案で言うと、角館駅を挟んで東西自由通路の必要性を議論したときは駅西のエムプレス跡地等の有効活用と市の土地として活用されているところをうまく合わせられれば駐車スペースとして使うことができるといった話から始まったものですが、結局そこは商用地として活用された方が土地の活用策としては適切だろうという判断になりました。東口と西口を繋げて東口の方の駐車場を有効活用し、西口に人を降ろそうという考え方でしたが、内川橋の改修を先にすべきだろうということになったので、現在5年ほど計画が遅れている状況にあります。

一方で佐藤委員がおっしゃられた現角館庁舎の跡地ですけれども、現在の機能は新庁舎へ移転となりますので、あの施設は解体となります。現角館庁舎の解体後、火除けの部分は大きな役割を担うスペースになってくると思います。この議論は本審議会でもそうですし、市民の方々の議論のテーマになると思います。その跡地をどのように利活用するのかということは、佐藤委員のお話にあった人の流れを変えるものになりますので、まちづくりの大きな契機になると考えています。これについては今後大切に議論していきたいと思います。

(5) 仙北市総合戦略の改訂について

藤村室長が資料を元に改訂事由と改訂内容を報告。

(6) その他

事務局から「地域サミット in 大館・仙北 2020」への参加のご案内を報告。

4. 閉会

○大山次長

長時間にわたり、ご審議いただきましてありがとうございました。これをもちまして第1回仙北市総合政策審議会を閉会いたします。皆さま、どうもありがとうございました。